

挑戦の大切さ伝える

今夏のパリ五輪・パラリンピックに出場した関彰商事関係者の特別講演会が12日、筑西市立川島小（同市伊讃美、柳田高志校長、児童数446人）で開かれた。サッカー男子監督を務めた同社スポーツアドバイザー、大岩剛監督(52)と陸上男子1000mに出場した東田旺洋選手(28)、ゴールボール女子に出場した高橋利恵子選手(26)が登壇し、挑戦する姿勢の大切さを伝えた。

パリ五輪・パラ出場の3人

講演会は、同社と筑西市が締結した「SDGs推進に係る包括連携協定」に基づくもので、「昨日までの自分よりも一歩前へ」と題して行われた。全学年の児童らが参加した。

大岩監督はサッカーを始めた少年時代を振り返る

中、大病を患った経験を伝えた。「病気が治ってサッカーを再開したら、友達より下手になっていた。やめたくなっちゃった」と述懐。「苦しい時は一回やめてもいい。これは何でも一緒」と話し「ただ、もう一回やりたくなったときに、真剣



子どもたちを前に講演する（左から）高橋利恵子さん、大岩剛さん、東田旺洋さん＝筑西市伊讃美

筑西・川島小で経験語る

に一生懸命やってくたさい」と語りかけた。

東田選手は、挑戦を継続するために「勝つこと、スポーツをつまぐやること以外、の楽しさを見つける必要がある」と指摘。陸上競技を始めた当初から「体を上手に動かしたい」と思い続けてきたことを説明し、「いろんな形の楽しさを見つけてもらえたら」と話した。

高橋選手はパリ・パラについて「自分らしくゴールボールを楽しみながらプレーできた」と振り返った。その上で「楽しいという気持ち忘れずに、どんどん挑戦していったほしい」と呼びかけ「一生懸命やっている人たちには（周囲が）手を差し伸べてくれる。私も多くの人に助けてもらった」と述べた。

子どもたちは真剣な表情で聞き入り、質疑応答では積極的に手を挙げていた。6年の田村有之助さん(12)は「アスリートはいつもチャレンジし、諦めない心や感謝の心で努力していると聞いた。自分はバレーボールをやっているが、教わった心の持ち方や意気込みを持ってやりたい」と話した。

（小野寺晋平）